



地域の夢

寺泊地域

「新市地域らしさ価値」を高めるための寺泊地域の方針と活動

寺泊地域は、こんなところ

■寺泊町の成り立ち

寺泊町は、新潟県のほぼ中央に位置し、東西は最長15kmで南北は16kmの海岸線に面している。北は弥彦山に接し、東は信濃川を隔てて穀倉地帯が広がっている。地形は概ね南北に長く起伏が多く、最も高い地点は弥彦山の638mで、越後山脈の支脈が海岸沿いに連なっている。夢の島佐渡とは20海里で本土からの最短距離にある。

寺泊の起りは、弘仁13年(822年)国分寺の尼僧法光が佐渡へ渡る者や、信濃川を渡る者のために布施屋を設け、渡し船2隻を造り、懇田40町歩をもって経常費にあて旅人を濟度したのに始まると伝えられている。古くは、伊神之渡戸(これかみのわたべ)の浜から「泊」といい、その後「寺尾泊」と呼ばれ、鎌倉時代頃から「寺泊」となったといわれている。順徳院をはじめ歌人の藤原為兼、日野資朝、日蓮上人など多くの時の人物たちが、ここから佐渡島へ配流となっている。

江戸時代の寺泊は、江戸、大阪、四国などに千石船が北海道への交易に寺泊へ寄港し、海上交通の要津であった。古文書等の記録に越後米の移出港として日に千俵の米がこの港から廻送され、北陸街道の宿場町として栄えたことが記されている。

明治22年市町村制がしかれ、寺泊町となり、明治34年11月に北西越村、西山村、潟村、野積村を編入合併し、その後昭和32年7月5日大河津村の大部分の区域と合併して現在に至っている。

寺泊地域の方針と活動 (右頁参照)

寺泊地域において「新市地域らしさ価値」を高めるための方向性と、活用したい地域資源(地域の強み)から検討した、将来実現すべき地域の姿(整備・活動方針)と実現のための活動・展開を提示します。



■自然と民俗芸能の宝庫

南北16kmの海岸線と肥沃な田園地帯の自然と景観は、住む人と訪れる人の心を捕らえて離しません。広い砂浜・海に沈む夕日・素朴な田園風景・点在する数々の史跡は人々の心を豊かにし、古からの海と港や農村集落に伝わる数々の歴史によって、民俗芸能と文化財の宝庫と言われ、民俗文化財に指定された「塩たき」をはじめ数多くの郷土芸能が伝承されています。地域の財産である自然を保持するため、毎年4月には住民ボランティアを中心とした海岸の一齐清掃が行われています。また、芸能文化団体が約30ほどあり、それぞれ活発な活動を続けています。



1 整備・活動方針と活動展開

—新市全体ありたい姿— WANT

寺泊地域において

独創企業が生まれ育つ都市

～誠実さが生み出す「技」立国・新ながおか～

を高める方向性

- ・人材や卓越した技術など、地域資源の発掘を通じたビジネスの開発
- ・マーケティング活動の促進や地域資源のネットワーク活用による産業のグローバル化の模索

—実現すべき寺泊の姿— WILL

■寺泊地域整備・活動方針

海と歴史・文化に育まれた技や知恵、産業（営み）の中に新たなビジネスチャンスを創造するまちづくり

- ・経済の側面だけではなく、文化としての水産業（漁師）の「技や知恵」など、これまで省みられなかった地域資源を発掘し、ビジネスとしての展開に挑戦
- ・マーケティング活動の促進や新ながおかの他の資源とのネットワークなど、積極的な行動による地域基幹産業のグローバルな変革への推進

実現していくための活動・展開

見極める

- 地域の潜在資源を地域の人々と行政が協働で発掘する仕組みづくり
- マーケティング活動も含め、寺泊地域外の企業者との交流など外部の意見を収集する活動を実施する

発信する

- 地域の産業の特色や内容を新ながおか地域全体及び県内外に広く発信する

育てる

- 地域の人々に対し地域資源の潜在的な可能性について理解を深めてもらい、一人ひとりの起業への発想力を育てる活動を行う

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

海辺・農村の深い集落文化

- 野積や郷本などの海辺集落に見られる独特の風土、風習（杜氏文化など）
- 歴史に培われた大河津や夏戸などの農村集落に見られる文化、特性（結束力など）

癒しの環境

- 寺泊地域全体が形成するのんびり、のびのびとした「懐の深い空気」をつくる空間
- ・美しい夕日、汐の香り、延々と続く砂浜、波の音など日本海を満喫できる
- ・素朴な田園風景、毎夜続く蛙の合唱など、懐かしい農村集落の風土を感じることができる
- ・少し歩けば寺社仏閣、船絵馬など、たくさんの歴史の足跡に触れることができる

風土が生み出す豊富な食材

- 食材の宝庫—海の恵み、山の恵み
- ・新鮮な魚介類や山菜など、地域の食材が豊富
- 環境に配慮した農作物生産への取り組み
- ・減農薬減化学肥料栽培への取り組みが進められている
- 施設園芸の推進
- ・メロン・イチゴなど、地域の風土を活用した生産活動が進められている

見極める

- 各集落地域がそれぞれの伝統文化を再評価し、情報化していく活動を実施する
- 地域の財産である景観や自然環境を保護する活動を推進する

発信する

- 無形的な文化（言葉・生活様式・食文化・景観など）の宝庫としての「寺泊」を情報発信する

育てる

- 既存の集客層を資源として、「集落生活体験」「自然環境保護」への理解を深める活動を促進する
- 体験・活動を提供するための受入体制づくり



2 整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

寺泊地域において

元気に満ちた米産地

～まごころ米の生まれる里・新ながおか～

を高める方向性

- ・農漁村地域の文化や伝統を守ることで「元気に満ちた米産地」を高める
- ・上記の実現による伝統的な農村漁村生活原体験を土台とした交流地域の形成

—実現すべき寺泊の姿— WILL

■寺泊地域整備・活動方針

「満ち足りた生活原体験」を未来に引き継ぐ集落文化保存地域への挑戦

- ・野積や大河津の集落文化や寺泊の町人文化など、寺泊地域に内在する生活様式や言葉などの無形的な文化に注目した地域保存活動を推進することで、地域の固有価値を高める
- ・歴史環境や立地環境によって生まれ、かつ上記の活動によって形成された「懐の深い」集落風土や自然環境を活用・保全し、素朴で伝統的な集落生活の原体験を来訪者に提供する地域を目指す

実現していくための活動・展開

見極める

- 各集落地域がそれぞれの伝統文化を再評価し、情報化していく活動を実施する
- 地域の財産である景観や自然環境を保護する活動を推進する

発信する

- 無形的な文化（言葉・生活様式・食文化・景観など）の宝庫としての「寺泊」を情報発信する

育てる

- 既存の集客層を資源として、「集落生活体験」「自然環境保護」への理解を深める活動を促進する
- 体験・活動を提供するための受入体制づくり

3

整備・活動方針と活動展開

—新市全体ありたい姿— WANT

寺泊地域において

世代がつながる安住都市

～未来人を育む資源博物館・新ながおか～

を高める方向性

- ・「世代がつながる安住都市」を実現するための人材育成の推進
- ・世代間の役割認識と分担を通じた世代交流によるまちづくりの推進

—実現すべき寺泊の姿— WILL

■寺泊地域整備・活動方針

地域の歴史を希望と力に換えて ゆとりとやさしさの寺泊人が 推進する世代共働のまちづくり

- ・自分を認めて他人を認めて行動できるゆとりとやさしさをもった人間形成に関する活動の推進
- ・自他を認めて成り立つ「役割」を地域間、世代間で共に考え、共働するまちづくりのあり方を模索

実現していくための活動・展開

資源の強み・内容

地域住民の意思によって守られた集落固有の文化

- 内陸の農村集落（大河津、本山、山ノ脇など）の結束力（“あんにやざ”の力）
- ・集落の若手が集まり、祭りや行事、家仕事を手伝うといった、家族を越えた結束力を持っている
- 野積集落の隠語文化など集落共有意識

地域が一体となったボランティア活動

- ボランティアによる地域の美化活動
- ・地域住民が一体となって海岸や河川の清掃活動を続けている

癒しの環境

- 寺泊地域全体が形成するのんびり、のびのびとした「懐の深い空気」をつくる空間

福祉、まちづくりへの住民参画

- 充実した老人福祉、小学生と高齢者の交流
 - ・養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、老人デイサービスセンター、痴呆対応型共同生活施設、高齢者生活福祉センター、軽費老人ホームがある
 - ・施設入居者と地域小学生との交流が盛んに行われている
- 「寺泊町地域づくり特別事業」試みの歴史
 - ・“地域文化”や環境と福祉と、5分科会に別れて地域住民で事業を計画し、実践するという、当時としても先進的な取り組みに着手した歴史がある
 - ・上記の活動を通じてできた「ボランティア団体等」によって、現在も花壇整備活動やITを使った情報発信活動が行われている

見極める

- 家庭教育や保育所活動などを通じて、子どもの生活や子育てを支援する場や仕組みづくりを行う
- 地域間、世代間で議論を行っていくことのできる場や仕組みを構築する

発信する

- 「世代共働のまち・寺泊」に関する情報発信活動を行う

育てる

- 地域の人々が主役となって、地域間交流や世代間交流を円滑にする役割の「地域づくり推進組織」を育成する

4

整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

寺泊地域において

世界をつなぐ和らぎ交流都市

～「人」「ものがたり」「競和国」・新ながおか～

を高める方向性

- ・新ながおか地域が初めて出合う地域資源…海、海岸、漁村等の海辺文化の活用と連携
- ・日本海を通じた新たな交流地域の模索

—実現すべき寺泊の姿— WILL

■寺泊地域整備・活動方針

日本海、佐渡島…、そして世界へ 新ながおかの新たな夢を拡げる 現代の北前船交流拠点の構築

- ・水産業、観光産業に限らない海辺文化と農村文化を活用した交流体験地域の形成
- ・佐渡島などの海域を通じた新たな交流地域づくり
- ・他の地域の文化を吸収して、和らぎの交流文化を創造していく拠点づくり

実現していくための活動・展開

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

広域交流の歴史

- 北前船の寄港地としての歴史・文化地域
 - ・北前船による交流から培われた寺社仏閣、船絵馬など、歴史の足跡がたくさん残っている
- 寺泊の水産物販売繁栄の原点
 - ・「魚の市場通り」での水産物販売は、カニの無償の提供（訪れた人の記憶に残る接客）から始まったといわれている

新たな交流資源としての独特の文化、魅力的な環境

- 海辺、農村の多様な集落文化が集積する
- 海水浴場、寺泊港、水族博物館、魚の市場通り、港まつりなどの資源と、来訪者をもてなす人々がいる

佐渡との交流の可能性

- 寺泊 - 赤泊航路の役割
 - ・新高速船が平成17年6月10日就航し、佐渡まで1時間となる
- 寺泊の人々と佐渡との交流
 - ・両泊（寺泊、赤泊）親善体育大会による交流が55年続いている

見極める

- 地域が持っている海辺や農村の文化を活用した交流体験の場や仕組み、プログラムの整備を行う
- 寺泊と交流する地域の文化などの情報収集を進め、寺泊地域の活動に活かす仕組みを構築する

発信する

- 海の玄関口として、新ながおかの地域情報を発信する
- 佐渡航路の拠点としての寺泊を発信する

育てる

- 地域が一体となったもてなしのこころを育成する
- 文化交流案内人と組織の育成

もっと詳しく地域の方

寺泊地域

寺泊町は地域の財産である海に代表される豊かな自然と景観、古くは北前船の寄港地として栄えた歴史に裏付けられたチャレンジ精神と優しさに満ちた人情、そして農村部に見られる集落文化を大事に守り受け継いできた地域力、自然と歴史と活力が融合した素晴らしい地域です。

現在の「海の寺泊」ブランドを多方面から検討し、人材や卓越した技術、海辺集落や農村集落に伝わる独特な伝統・風土・風習の発掘・再認識、地域・世代間を超えた共働意識の醸成を図ることによって、こころ豊かで活力ある地域として更なる発展を続けていきます。

■人と自然と歴史が融合する町

南北16kmの海岸線に面した豊かな自然と景観を地域資源として「海の寺泊」ブランドを確立したチャレンジ精神と農村部に見られる古き良き歴史と文化を大事に守り受け継いできた地域力が融合した魅力あふれる町です。

豊かな自然と景観を保持・継続するためにナホトカ号の重油流出事故での真冬の寒風吹きすさむ海岸での住民ボランティアを中心とした清掃作業など幾多の活動を行っています。

海の寺泊ブランドの一つ「魚の市場通り」の起こりは、カニの試食という大胆な方法により消費者のニーズをしっかりと掴んだ大胆な発想でした。

漁師が食べた番屋鍋や新鮮な魚介類の浜焼き、昔から作られてきた小鯛寿司、独特な製法の塩たき羊かんなど地域資源を大事にした食文化は町民の誇りでもあります。

「あんにゃさ」をはじめとする世代間の強い連携は、農村部に見られる、先祖が大事に守り受け継いできた塞の神・集落の祭での「かぐら」などの文化を後世に伝える重要な地域の力となっています。

これら自然や歴史などの地域資源を活用し、大事に守り受け継がれてきた集落文化との融合を図り、地域・世代間を超えた共働の町づくりを強力に推し進めている町です



■とびきり新鮮！ 魚の市場通り

魚の市場通りは、いつも大漁。新鮮な海の幸と旬の味が店内にいっぱい。活きの良さと安さが売り物の魚の市場通りは、さすが港街とうなずける品揃えです。



■魚とふれあえる日本海に浮かぶ水族博物館

魚に直接触ることが出来るタッチプール、世界最大の金魚ジャンボ獅子頭、テッポウウオの餌取射撃ショー、マリンガールの餌付けショーなど近海魚、深海魚、熱帯魚の世界各地の水中生物が遊泳する館内は生きた「漁学」を親子で楽しく体験できる魅力イッパイの水族博物館です。



■食材の宝庫 - 海の恵み

目の前に広がる日本海は食材の宝庫。この食材に人間の技と風土がミックスされ、漁師が食べた番屋鍋や新鮮な魚介類の浜焼き、昔から作られてきた小鯛寿司、独特な製法の塩たき羊かんなど満ち足りた食文化を堪能できます。



■地域・世代を超えた地域づくりへの取組

寺泊町の玄関口を彩る大河津花壇は地域・世代を超えたボランティア組織によって管理運営されています。



■文化の交流拠点

北前船の寄港地、港町として栄えた寺泊の白山媛（しらやまひめ）神社に航海の無事を祈って奉納された船絵馬は、50種類52枚にもおよびます。